

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念に基づき職員間で話し合い《ここが安心できる場所》となれるよう家庭的な雰囲気の中での暖かなケアの実践に努めている。	開設時に作成された理念は抽象的な部分もあることから、会議等を通じ、職員間で理念について作り替えの話し合いを行った経緯がある。理念にあるすべての言葉は、地域密着型サービスの意義に繋がり、実践の中でも職員の言葉としてよく聞かれている。検討することで再認識し理念を共有し実践に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は自治会に加入しており近隣の方と気軽に挨拶できる関係性を作り、必要時や何かあった時の施設設備を(AED等)利用して頂いたり地域との協力体制を維持している。	コロナ禍のため、以前のように地域との交流は難しい現状であるが、自治会より地域の年間予定を頂いている。近所の方からはご機嫌伺いの声掛けやとれたての野菜等を頂くこともある。街路樹や梨の花、田圃、梅等、地域の一員として季節を感じてもらえるよう日々の散歩を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での活動報告や内部研修報告にて認知症状に関する対応方法について情報発信し取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではサービス状況や事業所の取り組みを報告し意見や助言を現場へ反映するよう議事録を確認している。	運営推進会議は書面で定期的開催している。事業所より日常活動状況やインシデント・アクシデントの対応についても報告している。構成メンバーと家族へも書面で郵送している。今は、意見・質問が出される双方向の話し合いができるよう取り組んでいるところである。	運営推進会議は外部の様々なメンバーが参加し地域の理解と支援を得るために貴重な機会であるが、コロナ禍のため苦慮している状況である。一方通行の伝達で終わらないように構成メンバーと家族からの意見を引き出すことによりサービス向上に活かされることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	活動状況の報告や事業所側の相談行い必要に応じ連絡を取り関係性作りに努めている。	市の担当者とは何か分からない事があれば電話やFAX等で連携しており、協力体制はできている。また、入所された利用者の身体状況が低下し生活の拠点を移行された際にも、地域包括支援センター職員と相談しながら取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないケアを基本方針に掲げ事業所内に掲示するとともにスタッフ間での認識の共有と内部研修を行い適切なケアが提供できるよう取り組んでいる。	管理者が中心となり、身体拘束委員は職員の中で毎年交代し研修の担当となっている。ベッドのセンサーについても職員で話し合い、利用者の身体状況の変化を家族に伝える中で、外して見守りできるように職員の共通認識を図っている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について内部研修を行うとともに日々の支援の中で職員間でケアについての話し合いし、虐待の防止・不適切なケアの防止の取り組みをしている。	1月に内部研修の担当者より、高齢者虐待防止法について研修を行っている。職員の対応が難しい時は、話を聞き、利用者から離れて様子を見守ることや待つこと等、その都度助言を行うよう努めている。職員間でよくお互いに注意し声かけをしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて成年後見人制度を学びご利用者様、ご家族さまの状況・環境等に応じ制度を活用できるよう体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の不安・疑問点の聞き取りを行い支援方法等の説明を行うとともに意向の確認し問題の解消を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御利用者様の意見や要望をお聞きする中でご家族様からもアンケートをとり、あがった意見をスタッフ間で共有し環境整備し運営に反映できるよう取り組んでいる。	面会できない中、日々のケアについて家族へ電話や毎月のお便り等で伝え、その都度家族の意見や要望を伺うように努めている。ある利用者の主治医の話をきっかけに、看取り介護についてのアンケートを行い、今後の運営に反映できるよう考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りや会議の中でスタッフと管理者との要望・意見交換を行い代表者へ報告・相談をできる体制があり運営に反映できるよう努めている。	法人代表者や管理者は意見を言いやすい雰囲気や環境を大切にしている。最近の窓際の野菜カーテンを始め、異動希望・勤務時間変更など、利用者の生活を優先した上で、職員の気持ちを聞き長く務められるよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ一人ひとり業務担当と居室担当を受け持つことで責任感を持ち、行事の計画・準備しご利用者様へ楽しみを感じて頂きやりがいを感じられるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ・管理者と研修計画をたて毎月の内部研修を行うことで日々のケアの中で互いに声掛けあい研修の振り返りも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業者との運営推進会議とおし意見交換や情報交換を行うことでサービスの質の向上に努めるとともに交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談時、ご本人様ご家族へ困っている事や要望・生活歴等の聞き取りを行い環境の変化の不安を少しでも和らげるよう細やかな声掛けに努めご本人様に事前の意向確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前にご家族様の疑問点や不安に感じている事を解決できるよう説明を行いご本人様とご家族様を支える支援体制を整え信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様の状況を見極め適切なケアが受けられるよう支援の方向性を検討し、話し合いを行うとともに必要されるケアや介護サービスの情報提供し考慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	心身状態に変化が見受けられても出来ることの大切さを尊重し、個別ケア対応に取り組む中で一つ一つの声掛けや一緒に手作業等行うことで共同し主体的に生活を送って頂いている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様とご家族様の関係性を尊重しながらスタッフと一緒に支える支援を基に心身状態の良い時も悪い時も含め細かな説明を行いケア方針を話し合い信頼関係の構築に努めている。	毎月のお便りには、日常の生活の様子が伝わる写真も多く、また、居室担当職員が近況報告を記載した手紙を作成し、お便りとともに家族に送付している。利用者の家族への思い、家族の事情を受けとめながら絆を大事にし家族との関係を断ち切らないよう支援している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会は難しくなっているがご本人様から聞かれた馴染の場所等へ外出レクや行事とし関係が途切れ無いよう同行支援している。	5月に外出した際、帰りのドライブで自宅の周辺を通ったり、往診の歯科医院を確認した。手紙やハガキを馴染みの場所にあるポストに投函するなど、知り合いの人や場所との関係が継続されるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者様同士の関係性を把握し座る席の配慮や必要に応じてスタッフの介入支援させて頂き関係性の維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じご利用者様ご家族様の状況を考慮し介護サービスの相談や他施設への情報提供し支援しフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	様々なケアの場面でご本人様から意向確認を行い、ご家族様にも協力得ながら専用シートを活用し情報の共有し意向の把握と検討に努めている。	利用者の思いや暮らしの希望等を把握するため、「暮らしの情報」シートの13項目を活用し、日常の会話から聞き取りをしている。職員は新しい情報については追記し、1年に1回の見直しを行い職員で共有した利用者の思いや意向を理解している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談時ご本人様ご家族様、各関係者より生活歴や趣味等の情報収集を行い興味の持てそうなことの把握に努め入居後のサービス提供に取り組めるよう努めている。	センター方式の「私ができること、できないこと」を具体的に記入することで、本人のできる事は続けられるよう見守っている。入浴中での整容や趣味の読書等、事業所内で窮屈な思いをしないよう個々のいつもの暮らし方を尊重している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様一人一人の個別のケア方針を基本とし心身状況の把握に努め《出来ること、得意なこと》を大切に主體的に過ごせるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当スタッフによるセンター方式を基本とし身体状況の変化等見られた際のご本人様の意向ご家族様への報告・相談しモニタリングを行い介護計画の変更、反映している。	介護計画はセンター方式を基本としている。日々の実践状況は居室担当者、計画作成者等が記述し、管理者・看護師も参加し6ヶ月ごとに見直し、記録は変更場所を赤字にするなど見やすく整理されている。状態に変化が見られた時は、その都度の検討と本人の意向確認を行っている。コロナ禍の現在、家族への説明は受診送迎の面会時や手紙や電話などで出来るだけ丁寧に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況をケース記録に記入し、スタッフ間で周知し、心身状況の変化等の介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活を送る中でご本人様の意向・要望に可能な限り応じている。またご家族様の状況の把握に努め柔軟なサービス提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で現在地域資源を活用できていないが地域の防災訓練の参加、事業所のAED講習参加の声掛けし運営推進会議の構成メンバーと協力と支援体制は整えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後もご家族様の協力を得て受診をしている。また必要時の情報提供を行いながら連携を図っている。ご家族様が遠方の方は往診診療を受けられ毎月の報告を行っている。	以前からのかかりつけ医に家族の協力を得て受診をしている方や地域の医院の往診を利用している方がおり、本人や家族の希望を大切にしながら受診を続けている。週に1度の訪問看護の体調管理、医療面での相談が行われ、必要時の情報交換や適切な受診等、利用者・家族の安心に繋がるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度の訪問看護にて体調チェック、心配なこと、異変等見られた場合報告・相談し指示仰ぐとともに往診医へ繋げ適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様の入院時は相談員との細かな情報交換を行い受け入れ態勢を整えスムーズな退院調整を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様への終末期のアンケートを行いながら状態の変化時の密な連絡、都度の意向の確認をし主治医を含めチームで支える体制をとっている。	重度化や終末期に向けての対応も、開設11年目を迎え今迄にも看取りケアは行っている。家族には契約時、ガイドライン(指針)と事業所で出来ることを説明し、同意を得ている。また、職員に対しても、終末期の学びや看取りの不安を感じるなどに対して、訪問看護師による職員研修「看取りの勉強会」を行い、利用者・家族・職員の安心を得られるよう支援に取り組んでいる。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や緊急時の対応方法のマニュアルを備えるとともに定期的な心肺蘇生法やAED講習会を行い、他スタッフ間で不安があるときはは内部研修として対応方法を学ぶ機会を設けている。	管理者・計画策定者はじめ職員は、自分らしく暮らすことのできる「ここは生活の場」と捉えている。医療や訪問看護・職場の看護師等との連携も取れており、マニュアル整備・緊急時のフローチャートが作成され、AEDの操作訓練も定期的に行われ実践力を身に付けている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災や水害・地震の避難訓練と通報訓練を行っている。また、避難場所が遠いことから地域のセレモニーホールより一時避難場所として協力も得ている。	防災計画に従い年2回の避難訓練を行い、地域の自衛消防団と利用者の避難場所を検討する機会を得て、水害対策としての避難場所の同意をもらい「避難協定書」を取り交わしている。	災害対策は火災・地震・水害等多岐にわたり利用者が安全に避難でき命が守れるよう、全職員で取り組むことが求められている。今後は、「食料や備品リスト」「災害時の対応マニュアル」の整備を進め、管理者はじめ全職員が具体的な行動を安全に行うことが出来る体制づくりを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修にて接遇マナーを学ぶとともにご本人様の訴えや個々の人格を尊重し肯定的な対応に努めている。	利用者への対応に関しては「接遇」の内部研修を行っている。研修の中では、マナーや言葉使いなどの大切さを学んでいる。今後も、利用者のプライバシー保護と人格への配慮や権利とともに、利用者尊重の研修やマニュアルの整備が望まれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の支援の中でご本人様の意思や自己決定を大切にし一つ一つのケアの中で都度の声掛け確認しご本人様の自己決定を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課を優先ではなくご利用者様の心身状況もふまえ、一人ひとりのペースを大切に説明・声掛けのもとに希望を聞き取っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居前から使用していた保湿クリームや使い慣れたもの、好みのものを持ってきていただきその人らしい身だしなみ整えられるよう大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	時期の食べ物や食事準備を一緒に行うことで季節感を感じて頂いたり、会話の中から食べたいものをひろいお楽しみレクとし作り食事を楽しめるよう支援している。	宅配サービスの食材を基本に調理している。事業所建物周りには、ゴーヤ・みつ葉やミョウガ・きゅうりなど野菜を育てている。地域の方からも野菜や地域特産の梅をもらい、シソジュース・梅ジャムを利用者も手伝いながら作りおやつ時に楽しんでいる。誕生日には、利用者本人の食べたいものを聞き取り祝うようにしており、「食べることは大事なこと」と準備から後片付けまで、それぞれの出来ることを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事を決められた量提供し摂取量の記録や、ご本人の状態に合わせ食器を変えたり、今までの食事習慣や嗜好品を継続できるようご家族様にも協力を得ながら環境整備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの支援を行うとともに、希望時や必要時の歯科往診を取り入れ口腔内の健康状態のチェックを行い清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により排泄状況の把握し必要時のトイレ誘導にてトイレでの排泄支援を行い、ご自身で可能な方は環境整備し自立支援に取り組んでいる。	バイタルチェック表でチェックを行い、出来るだけトイレでの排泄ができるよう支援している。事業所内の廊下を歩き体力維持に努めたり、寒天・ヨーグルトの上に手作りジャムを載せていただき、昔から飲んでいる手作りシソジュースを水分補給時に提供したりして、排便がしやすくなるような工夫を継続して行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分量の確認を行い排泄状況に応じ水分量の確保に努め、内服薬の処方されている方は確実な内服支援と排泄状況に応じた調整に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆったりと入浴して頂くためご本人様への事前の声掛けを行い意向を確認し、ご利用者様状態に合わせた二人介助での対応や季節感を感じれるような入浴支援をしている。	職員は入浴前の声掛けを大切にして支援している。声かけ時、状態把握や意向確認することで、入浴日を変更したりシャワーや清拭などで対応している。一人一人に寄り添いゆったりとした気分で入浴の時間が楽しい時間になるよう、ゆず湯など季節を取り入れながら丁寧な支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様一人一人の心身状況の把握に努めるとともに、温度や布団などの調節し環境も整え快適に休んで頂けるよう努め、訴え時には都度の受容・傾聴し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人ひとりの内服薬や軟膏等を服用薬品名をファイルしすぐに確認できるようにし、ご本人様の疾患の状態観察に努め変更時にはその場の勤務者全員で確認し記録に情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴にて行っていたことの趣味・特技は入居されても継続できるよう環境整備している。また、生活の中で聞かれた要望はご家族様のご協力・理解を得て支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様と相談をしながら季節に応じたレクリエーションを実施、外への散歩や郵便物を出したりと日常的な外出支援を行っている。	コロナ禍の現在、いつものような外出はできていないが、地域に咲く梅林や桜の花見やドライブに出かけたり、私物の郵便物を出しながらの散歩・日光浴や事業所周辺の散歩など日々の支援を継続して行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お一人ひとりの状況に応じご自身で管理できる体制を維持している。また、ご家族様にもご理解とご協力して頂き適切に管理できるよう環境整備している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様の状況によって携帯電話をもちお好きな時に連絡のやり取りをされたり、持っていない方は希望に応じ電話や手紙のやり取りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様にとって不快や混乱を招かぬよう騒音や室温・湿度の管理を行いながら季節を感じられるよう時期の花を飾り、フロア内の季節装飾もご利用者様と作りホーム内でも季節を感じられるよう努めている。	事業所内は天井が高く、明るく木材が多く使われている。利用者共同作品「寅年の貼り絵」や展示物、季節の花や観葉植物が効果的に配置されており、事業所内が整理整頓・清掃・換気されている。利用者・家族・来所された人たちに居心地良く、窓越しに見える野菜などの作物も自然や季節を感じることでできる場所と空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは一人ひとり心身状態によつての動線に配慮しながらも、日常的にご自身のペースで過ごせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の空間は、ご本人様やご家族様と相談し使い慣れた家具や生活感を感じられるよう持ち込んで頂き、動線に配慮した配置を決め移動できるよう取り組んでいる。	使い慣れた身の回りの物を自宅から持参されている。それぞれの利用者の状態に合わせたベッドと備え付けの洗面台、クローゼットを用意しており、入所時に本人・家族も一諸に相談しながら、利用者の動線に合わせセッティングしている。管理者はじめ職員は、居室はプライベートな空間と考え、家族と共に好きな写真や飾り物を楽しめるよう見守り、また、利用者のできるところを大切に、シーツ交換や居室の清掃に参加できるよう声掛けしながら支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様お一人ひとり出来ることの大切さや維持・継続できるようスタッフ間で共有し個別のケアに取り組み可能な限りじりつしえんに努めている。		